

新入生のみなさんへ

京都大学 総長 松本 紘



京都大学へ入学おめでとうございます。

大学という世界に第一歩を踏み入れ、皆さんの胸中は漠然とした不安や未知への期待で一杯のことと思います。高い理想を胸に前向きに大学生活を始めてほしいと思います。

これから大学で受ける教育は高等学校とはかなり異なります。これまでは正解のある問題を解くための方法や考え方を、用意されたカリキュラムの下で習得することが主な学習スタイルであったのではないのでしょうか。京都大学では、自分をどのように育てるのかを自ら考え、それを実現できるように学業を修めることが期待されています。これは117年の本学の歴史において、その濫觴（らんしょう）からもちつづけ、大切にしてきた「自得自発」及び「自学自習」という教育理念による学びの姿です。みなさんはこれまで、自分の学ぶ内容や方法を自ら考え、実行するという経験には乏しいかもしれません。しかしそのことは心配には及びません。そのために教職員がみなさんの「自得自発」及び「自学自習」を助けるために組織され、みなさんとの対話を待っているのです。京都大学の誇る多様な環境において、未知の先端的なあるいは深遠な知識や研究に触れることを通じて、自らを大きく育ててほしいと思います。

本学の特徴の一つとして自由の学風がよく世間では取りざたされます。しかし、この自由というものは誤解を招きやすいものです。勝手気儘という意味ではないことは既にお分かりのことでしょう。自由の基本は、自分が積み上げてきた知識、あるいは自分で常識と思っている事柄からの自由、すなわち自分の中にあるものからの自由のことです。換言すると、既成概念、思想、感情からの自由ということになります。そこから自由になることによって、我々は新たな発想を生み出すことができるのです。つまり、自分が積み上げてきたものが常に正しい、自分の世界はこれで十分と思った段階で、その後の発展の可能性が閉ざされてしまいます。そういう意味で、言い古されてきたことかもしれませんが、自由には様々な束縛からの自由という受動的な自由と自分がやりたいことを自律的に決めるという積極的な自由があります。自分の中にあるものからの自由はこの受動的な自由の一つです。その場合、過去から営々と築き上げられてきた学術的遺産にふれ、小さな自分を認識することこそ重要であり、そこに教育の大きな意義があります。そのためにはときに積極的な学習解除 unlearning の時を持つことも必要か

もしれません。そして、さらに消極的な自由から積極的な自由へ進むうえでも、自律的に決めるための知識の大きな枠組みが必要です。その骨格を形作る作業こそがこれから始まる教養・共通教育に求められるのです。

国際会議などで海外の卓越した研究者と食事をともにする場合など、彼らが自らの専門のみならず、人文学、社会科学、自然科学のそれぞれに広範な知識を持っていることに驚かされることがあります。このように、理系や文系といった枠にとらわれず、豊富な基礎知識を備え、自由な発想、柔軟な思考を持つ人が社会から今後ますます求められるでしょう。みなさんがそうなるためにはこれから一層全人力を鍛える必要があります。そのためのメニューを一層充実させていきたいと思います。幸い、みなさんが学ぶ京都大学は10の学部、18の大学院からなり、専門分野以外の様々な知識に学内で容易にアクセスできます。また、カリキュラムとしては多様な全学共通科目が提供されており、それらを自ら選択し、受講することができます。

さらに、本学は日本最大の研究所・研究センター群を擁しています。大学院進学までこれらの先端分野で研究を進める研究者やそこで学ぶ人々と出会う日を待つ必要はありません。学部時代にも是非、研究所も含めた全学の教員によるポケットゼミなどを通じて、自ら進んで最先端研究者の様々な考え方や知識および経験に触れてください。

私は人生は木の成長に例えることができると 생각합니다。大木が育つには肥沃な大地が必要です。土地を富ますことなく、外見のみを整えるだけでは、大木は育ちません。自らを肥沃な大地とするために、また全人力を豊穰なものにするためにも、これから始まる数年間をみなさんの礎をつくる時期として大切にさせていただき、是非、自らを鍛え、自らに恃み、自らが樹(た)つことができる人(自鍛自恃、自樹自鍛の人)になっていただきたいと思います。

あわせて、健康で安全な生活が送れるように生活の場を整えてください。大学生は既に自立した個人であり、社会的な義務および責任が課せられます。我々は集団の中で生活しています。人とのかわり方や意見交換の方法をしっかりと身につけ、自らの言動に責任をもち、他人を尊敬尊重することを心掛けてほしいと思います。大学生活において悩みを持つこともあるでしょう。その場合には、大学の先輩や教職員に加え、みなさんの相談に乗ってくれる学生総合支援センターや各種相談室もあります。

京都大学は世界に開かれています。交換留学制度を利用したり、留学生の友をつくるなど、世界に触れる機会を大いに活用してください。これからのキーワードは「いじげん(異自言)」です。柔軟な頭で「異」国や「異」分野の思想・文化・歴史を積極的に学び、同時に自国の思想・文化・歴史を知ることによって自分自身の考え方など大いなる「自」を確立し、若い時にしかできない多「言」語の基礎を身につけるよう期待します。

京都大学の卓越した教育・研究環境を自らのために活かし、みなさんが有意義な大学生活を過ごされんことを総長として願っています。